

(2) 病棟看護師の退院支援に関する訪問看護師の評価

医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 ○山元 輝昭

医療福祉学研究科保健看護学専攻 富田 早苗

【目的】

本研究は、病棟看護師の退院支援を、病院外部の連携機関である訪問看護ステーションの訪問看護師が評価することで、退院支援の質向上を図ることを目的とする。

【方法】

無記名自記式質問紙調査を用いた横断研究を行った。2022年2～3月、A県の訪問看護ステーション177か所に各施設3名のアンケート調査を依頼し郵送にて回収した。調査内容は、基本属性、退院支援満足度等であった。分析方法は、退院支援満足度を低群・高群に分け、多重ロジスティック回帰分析を用いて関連要因を検討した。さらに、退院支援全般に関する思いを自由記述で求め、内容毎に整理した。

【結果】

531名にアンケート用紙を送付し208件を回収した。回収率は39.2%であった。訪問看護師の平均年齢は 48.3 ± 8.9 歳、訪問看護師の経験年数は 10.3 ± 8.9 年であった。訪問看護師退院支援満足度10段階の評定尺度では、1～5の低群が119名(60.4%)、6～10の

高群が78名(39.6%)であった。ロジスティック回帰分析の結果、退院支援満足度に関連する要因は「退院後の生活に関する情報収集」「病院との地域連携」「訪問看護師経験年数」「サービス利用者から退院支援への要望や苦情を受けた経験」の4項目であった。また、自由記述では、退院後に備えた物品、環境等の準備不足や病棟看護師の在宅療養への想定力不足を指摘する内容が多くみられた。

【考察・まとめ】

本研究結果より、退院後の生活に関する情報収集の不足等が、訪問看護師の退院支援満足度の低さに関連があることが明らかになった。また、自由記述からも病棟看護師の在宅療養への想定力不足が指摘されており、患者の退院後の療養先についての情報提供を強化することや、在宅環境を踏まえた物品などの支援を行うことが、退院支援の質向上を目指す上で必要と考える。本調査結果は、継続看護の課題を明らかにした。病棟看護師の研修の一環として訪問看護師と訪問を行う等、退院支援の向上に向けた対策が求められる。